



みらいこども園

11月号

2024年11月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

秋を感じて

今年は、10月を過ぎても25度を超える日もありますが、朝晩は、大分、秋が深まってまいりました。乳幼児期は体温の調節が難しいため、体調を崩し易いので、健康には十分お気をつけください。

「天高く馬肥ゆる秋」と昔から言われておりますように、両手を広げて、空を見上げて深呼吸すると「気分爽快」新たなエネルギーをたくさんいただけるようで、心が豊かになります。子ども達もより一層元気パワーで、興味関心のアンテナをフル稼働させて毎日の園生活を楽しんでいます。

10月17日、にじ組さんとそら組さんが園庭で育てていたサツマイモ掘りを行いました。まず、にじ組さんが、畑に入り、ツルを引っ張ると、あちこちから、「あったよ！でっかいよ！」「これ面白い形だね！」「これ赤ちゃんみたいで可愛い！」などと声上がり、どの子どもも夢中になってお芋掘りを楽しみました。そら組さんは、畑の周りに植えた麻袋を解体し、お芋を一生懸命探しました。周りにいたほし組さんや乳児さんも、「僕もしたいなあ〜」「この葉っぱなんだろう」と興味津々で、葉っぱを頭の上につけて、「トトロの葉っぱ」と言って走ったり、綱引きしたり、電車ごっこをしたり、リースを作ったり、ツルを体に巻いたりして、アイデア満載の遊びを楽しんでいました。29日には、収穫したサツマイモを調理室で蒸かしていただき、にじ組さんが、各担当を決め、お店を作ったり、乳児さんが待っているところに行き、お芋をやさしく分けてあげたりして、子ども達の微笑ましい姿が見られました。どの子ども達も、嬉しそうに「おいしいね」と言いながら食べ、幸せな時間を過ごしました。

10月18日は、ほし組さん、10月24日は、にじ組さん、10月25日はそら組さんが、お散歩遠足に出かけました。ほし組さんは、出かける際、小雨がぱらついていましたが、江川せせらぎ遊歩道を中心に、草木や生き物を見つけながら、秋を感じてきました。また新城高校にお邪魔して、どんぐり拾いを体験させていただきました。当日は、校長先生、副校長先生、教頭先生、広報の先生も立ち会い、温かく見守っていただきました。生徒さん達にも園児の可愛らしさが、目に留まったようで、多くの生徒さん達から、歓声が上がっていました。そら組さんも、後から便乗して、どんぐり拾いを楽しませていただきました。今年は、例年よりも豊作で、袋いっぱいを持ち帰ることができました。そら組さんは、江川せせらぎ遊歩道を通って、大きな滑り台があるところまで行きました。怖がっている子もいましたが、最後には、一人でできるようになるとどの子どもも笑顔で楽しんでいました。また、紙皿で作った「散策ボード」を首にかけ、自分が気に入った葉っぱや花、木の実などを拾って、貼って楽しんでいました。にじ組さんは、観光バスに乗って、「王禅寺四ツ田緑地」に行き自然体験をしてきました。まるで、妖精のトトロが住んでいるような森の中を歩き、古木や、キノコ、虫、どんぐり、栗等を見つけたり、木登りや手作りブランコを体験したり、思うままに自然を満喫しました。にじ組さんになると、物を見る目(観察力)が磨かれ、中には、生物博士のように、見ただけで名前や特徴を友達に話している子もいて、互いに生き物について学ぶことが出来ました。今回も、NPO 法人国際自然大学の2人の森の案内人をお願いし、森の中での過ごし方を教えていただきました。田園調布学園大学からも、5人の学生さんが来てくれて、子ども達とたくさん触れ合ってもらい、普段体験できない遊びを楽しみました。たくさんの生物が生存する森の中ですので「蜂が近くにきたら、お地藏さんのポーズをする」という教えを率先して行っている姿もあり、多くの学びがありました。自然と触れ合うことは、五感を豊かにするだけでなく、命の尊さも学ぶことにもつながります。これからも、いろいろなことに興味関心をもち続けて欲しいと思います。お昼は、お手製の美味しいお弁当を、仲の良い友達と一緒に食べました。「ママのお弁当は、世界一美味しいね」と言いながら、幸せいっぱい笑顔が溢れていました。乳児さんも秋を感じに、これから大いにお散歩を楽しみたいと思っています。

サツマイモ掘り



おいもください



チケットみせて

王禅寺四ツ田緑地にて

